

女性医師支援のあゆみ

History of  
female doctor support

# 第6章

## バトンの手渡し



## (1) 北海道の地域医療を考える 若手医師ワーキンググループ

北海道医師会では、やがて北海道内の地域医療を支える一員となる医学生ならびに若手医師に、共に活動する場と地域医師会の先生方から学ぶ機会を提供し、医師会の活動を通して10年後、20年後に北海道または世界的に活躍できるよう支援し、併せて医師会への理解を深めてもらうことを目的に2016年6月4日（土）に開催した。参加者は24名（うち医学生7名・若手医師4名）。

### 次 第

1. 開 会
2. 挨拶
3. 出席者紹介
4. 議 事
  - (1) 医師会主催の医学生・若手医師のキャリアデザインを考える事業について
    - ①医学生・研修医と語る会  
[日医共催：医学生、研修医をサポートするための会]
    - ②医学生キャリア形成支援セミナー  
[北海道補助事業：女性医師等支援相談窓口]
  - (2) 医学生・若手医師向けのイベント・勉強会の企画について
  - (3) その他
5. 意見交換
6. 閉 会

## (2) 北海道・医師の総活躍 プロモーション検討会

北海道医師会では、女性医師に限らず、すべての医師がより良い環境で活躍できるよう、さまざまな能力・価値観を持った多様な人材が参画し、医師が真に求める必要な支援策などについて議論することを目的に2016年6月4日（土）に開催した。参加者は16名。

### 次 第

1. 開 会
2. 挨拶
3. 出席者紹介
4. 議 事
  - (1) 検討会の目的について
  - (2) 勤務医師会若手医師活躍専門委員会（仮称）の設置について
  - (3) 検討事項について
  - (4) 今後のスケジュールについて
5. 意見交換
6. 閉 会

## (3) 医学生・若手医師 キャリア形成支援検討会

北海道医師会キャリアデザインセミナーの企画・運営を医学生・若手医師自らが行うため、意見交換を通じて課題を検討し取りまとめることを目的に2017年6月18日（日）に開催した。参加者は25名[医学生13名、若手医師9名、その他3名]。

### 次 第

1. 開 会
2. 挨拶
3. 出席者紹介
4. ワークショップ
  - (1) ラウンドⅠ「働き方、キャリアの悩み」
  - (2) ラウンドⅡ「働き方、キャリアの悩み」
  - (3) グループ発表（全体共有）
5. グループワーク  
[キャリアデザインセミナーについて]
  - (1) グループディスカッション  
[アイデア・企画案（講演・形式・内容）作成]
  - (2) 全体ディスカッション  
[運営メンバー・今後の進め方]
6. 閉 会



医学生・若手医師キャリア形成支援検討会（2017年6月18日）

#### (4) 医学生・若手医師 キャリアデザインセミナー

北海道医師会では、医学生との意見交換を通じて、医師として働き続けることに対する意識やそのために必要な環境整備などに関する意見を把握し、今後の効果的な相談窓口事業推進のための参考にと、将来の離職防止を目的に「専門医制度を学び、これからのキャリアを考える」をメインテーマとして、2016年7月24日（日）に開催した。参加者は28名。

##### 次 第

1. 開 会
2. 挨拶
3. 話題提供
  - 1) 新専門医制度 — 新たな仕組みと若手医師 —  
北海道大学大学院医学研究科生殖内分泌・腫瘍学分野教授／一般社団法人日本専門医機構専門研修プログラム評価・認定部門委員  
櫻木 範明 先生
  - 2) これからの医療ニーズと北海道の研修体制について  
北海道保健福祉部地域医療推進局地域医療課  
医療参事 石井 安彦 先生
4. ワークショップ
5. グループ発表または全体シェア
6. 閉 会

以後、毎年、医学生・若手医師の当事者が主体となり、企画しキャリアデザインセミナーを開催している。

#### ■開催状況

開催日	内容・主なテーマ	参加者
2017.09.03	働き方改革の背景とディセント・ワーク	33名
2018.02.25	臨床医として進化し続けるために～医師のキャリアデザインとイクボス～	50名
2018.10.28	私のキャリアパス ～connecting the DOTS～	45名
2019.03.21	これからのキャリアを考える 「国境なき自由人救急医ナカジー何故ここに」	54名



医学生・若手医師キャリアデザインセミナー（2017年9月3日）

#### (5) 若手医師専門委員会

次世代を担う若手医師の意見を北海道医師会勤務医部会の活動に反映することを目的に、勤務医部会設置規程第5条の1項の規定に基づき、若手世代が参画する専門委員会を2016年8月9日に設置した。

委員は、若手世代の原則50歳未満の会員で構成し、地域、診療科、卒年、性別などを考慮して委嘱し、初年度は、25歳から44歳の男女各4名、平均年齢36.3歳でスタートした。

また、委員会では、2017年3月20日～4月20日の1カ月間、「世代間ギャップ・アンケート」を実施した。アンケートの概要は次のとおりである。

### 「世代間ギャップ・アンケート」目的

世代によって物の考え方や価値観が異なることにより、管理職世代から若手医師世代を見ると、なんとなく頼りなく感じ、一方、若手医師世代から管理職医師世代を見ると、なんとなく威圧的に見えることがある。

管理職世代と若手医師世代が抱える世代間ギャップの実態を調査し、現状を把握・分析することにより、日々の診療を円滑に行い、医療安全の面においても重要であるコミュニケーションの改善に役立てる。同時に、男女共同参画の視点から、職場にあるいは日々の生活の中に、ジェンダー・ギャップがどのように存在し認識されているのかを調査し、各ジェンダー間でのストレスフリーな協働を目指すために役立てる。

調査依頼先 北海道内の臨床研修病院58件

調査対象 調査対象医療機関において勤務する医師[部長・医長・医員・研修医・専攻医など](非常勤医師を含む) 回答数666件(14.24%)

調査結果は、平成29年度全国医師会勤務医部会連絡協議会[2017年10月21日(土)・札幌市]において報告するとともに、北海道医師会勤務医部会若手医師専門委員会報告書を作成した。

## (6) 勤務医交流会の企画・運営

日本医師会からの要請により、全国医師会勤務医部会連絡協議会の開催に合わせて、2017年10月22日(日)「勤務医交流会」を全国に先駆けて開催した。

当日は、主催した当会若手医師専門委員会の藤根美穂委員長が司会を務め、日本医師会の市川朝洋常任理事の話題提供の後、「医師の働き方を考える」をメインテーマにグループワーク形式で、各グループに与えられたテーマごとに世代を超えた交流とディスカッションを行った。参加者は、勤務医・医学生・初期研修医・若手医師など93名であった。

会の最後に、今村日本医師会副会長より「本日の試みは大成功だと感じた。出席者の年齢差が上下で55歳もあり、活発な議論にならないのではないかと危惧していたが、杞憂だった。短時間での議論と集約を行えることに、改めて一人一人の医師としての

能力の高さを感じた。本日出された意見の国への提言、広報が日本医師会の役目である」と総括があり閉会した。

### 次第

1. 開 会
2. 挨拶
3. 話題提供  
「医師の働き方を考える」  
日本医師会 常任理事 市川 朝洋 先生
4. 出席者紹介
5. ワークショップ  
メインテーマ「勤務医の働き方」  
テーマ① 長時間労働の法対策  
テーマ② 多様な働き方と診療支援システム  
テーマ③ 医療現場の世代間ギャップと管理職の意識  
テーマ④ キャリア設計とワークライフバランス  
テーマ⑤ 医師として働くことの理想と現実
- 1) グループディスカッション
- 2) グループ発表
- 3) 総括・全体シェア
6. 閉 会



勤務医交流会(2017年10月22日)

## 医学生・若手医師 キャリアデザインセミナーに携わって

日本医師会ジュニアドクターズネットワーク 代表  
北海道医師会勤務医部会 若手医師専門委員会 副委員長  
北海道大学病院 内科 I  
佐藤 峰嘉 先生



北海道医師会では、2016年7月より「医学生・若手医師キャリアデザインセミナー」を開催しています。私は当初の立ち上げから企画運営に携わって参りました。現在では、より若い世代である医学生が中心となって企画を行っています。

それまで北海道医師会では、医学生や研修医を対象に、男女共同参画やワークライフバランスについて早期からの理解を深めることを目的にした「医学生・研修医と語る会」を開催し、医学生や研修医を招いて話題提供や意見交換を行ってきました。その会を当事者である若手世代が企画することによって、内容をより若い世代の関心の高いものにし、より自由に意見交換のできる雰囲気になるように発展させたものがこのキャリアデザインセミナーです。また、このセミナーの企画にあたり「医学生・若手医師キャリア支援検討会」を先立って設け、どのようなセミナーにしたいか医学生や若手医師に直接集まって話しあってもらうことも行ってきました。女性医師等支援相談窓口に携わってこられた多くの医師会の先生方にもご協力、ご出席いただき、開催を継続することができています。

セミナー前半の話題提供では、新専門医制度の開始に伴った制度の説明やそれに伴う医師としてのキャリア形成のあり方、最近の医学教育においてキャリア形成がどのように取り上げられているか、ディーセントワークやジェンダー等についてこれまで取り上げてきました。また、多くの先生方にどのように考えて自分の現在のキャリアを築いてきたかをお話しいただいております。後半の意見交換会で

は、幅広い世代の参加者が少人数に分かれ、キャリア形成の悩み等をそれぞれの立場から話しあっていただいています。企画する側の私もいつも発見や気づきがあります。

参加者は医学生が多く、最近は司会進行も行ってもらっています。特に少人数での意見交換の際には、現在働いている世代がどのようにキャリアを築いてきたかについての話を聞くだけでも、これからキャリアを積む若い世代にとっては貴重な機会になっているようです。一方で上の世代にとっては、今日の医学生や研修医がキャリア形成においてどのような悩みを抱えているのか、どのような希望があるのかということを知ることができる機会となっています。若手世代が率直に意見することもあります。上の世代の先生方にはいつもあたたかく受け止めていただいています。世代や診療科の垣根を超えた交流が可能であることがこの会のユニークなところであり、医師会ならではの取り組みであると考えています。全国の都道府県医師会の中で、北海道医師会のこの取り組みは先駆的であると考えております。一方で、日々の臨床能力の研鑽に忙しい研修医の参加が少ないことが多く、内容も医学生と研修医の興味やニーズが必ずしも一致しないことということが課題かと感じています。

今後も幅広い世代からより多くの方に参加していただき、充実した会になることを期待しています。今後ともご支援いただけますようお願い申し上げます。

## 若手医師専門委員会 「勤務医交流会」の企画・運営を担当して

北海道医師会若手医師専門委員会 初代委員長  
同女性医師等支援相談窓口コーディネーター  
岩見沢市立総合病院 小児科  
藤根 美穂 先生



2017年10月、北海道医師会の担当で開催された全国医師会勤務医部会連絡協議会（全勤協）の翌日に、世代を超えた交流を通じて、勤務医の働き方を考える「勤務医交流会」を全国で初めて開催した。

当日は、委員長であった私が総合司会を務め、学生や若手医師とベテラン医師合わせて数人ずつのグループを構成し、「勤務医の働き方」の各論として、「長時間労働の法対策」「多様な働き方と診療支援システム」「医療現場の世代間ギャップと管理職の意識」「キャリア設計とワークライフバランス」「医師として働くことの理想と現実」の5つのテーマに沿ってワークショップを行った。初の試みながら参加して下さった方々からはその立場、世代という背景からくる様々な思いを含んだ意見や話題がたくさん語られ、密度の濃い時間となった。各委員はテーブルごとのファシリテーターとして活躍し、タイトな時間配分の中、それらの内容を手際よくまとめ発表していた。日医今村聡副会長から「本日の試みは大成功だと感じた。出席者の年齢差が上下で55歳もあり、活発な議論にならないのではないかと危惧していたが、杞憂だった。短時間での議論と集約を行えることに、あらためて一人一人の医師としての能力の高さを感じた。本日出された意見の国への提言、広報が日本医師会の役目である」と総括をいただいた。使う道具の選択から会場づくり、段取りまですべて初めてのことで、また未熟な総合司会でご不便ご迷惑をおかけしたと反省しつつも、終了後には次年度の全勤協の際にも実施したいという声が聞かれ、達成感を味わうことができた。参加者の皆さまはもとより、若手専門委員会の各委員、医師会スタッフ、ホテルの会場スタッフに至るまで、

ご尽力くださった皆さまにあらためて感謝したい。特に本州からのご参加で、台風接近で帰りの交通機関の運行に不安がある中ご出席くださった先生方にはいくら感謝しても感謝しきれないと、今でも感じている。ありがとうございました。

2年間若手医師専門委員会として活動してきて何より良かったことは、普段は話をする機会がない同年代の医師たちや諸先輩たちと卒業大学、勤務施設、診療科を超え、医師としての仕事の枠も超えて同じ時間を過ごし話し合うことができたことだと思う。人として成長していくということを含め、専門医として一通りの仕事をこなせるようになるまでの時期はとても苦しいものだ。その間には様々なライフイベントもあるが、その時々を思いを語り合える仲間存在は困難な時に支えになるし、「若い」時期を過ぎてその先どのように過ごしていくかについても先達の存在は大事である。そうした出会いは時には近いところには見いだせないこともある。

心理学者E・H・エリクソンの発達段階説によれば40代以上65歳ぐらいまでの壮年期の達成目標は次世代育成である。日常の臨床現場での次世代育成にとどまらず、職能集団全体としての次世代育成にも私たちは多かれ少なかれかかわっていく必要があると思うし、そうした意味で医師会での活動は重要なものと感じている。いきなり親になることがとても難しいことであると同じように、後に続くものを守り育てることも学び実践する中で少しずつ身につけてくるものだろう。医師会の中に若い仲間がこれからも増えてくれることを期待し、仲間たちのためにできることを精いっぱい務めていきたいと考えている。

## 若手医師からのメッセージ

### Gender Equalityの観点からみた 医学生・若手医師キャリアデザインセミナーの先駆性

北海道医師会勤務医部会  
若手医師専門委員会 委員  
日本医師会 ジュニア  
ドクターズネットワーク  
元代表  
東京大学大学院 医学系研  
究科 公衆衛生学  
阿部 計大 先生



日本のGender Equalityの現状は、世界経済フォーラムが発表したGlobal Gender Gap Index 2020において153か国中121位（史上最下位）であり、他国と比較して対応の遅れが指摘されています。特に管理職に占める女性割合17%、国会議員に占める女性割合11%という数値に代表されるように、女性の政治経済活動への参画が進んでいません。

日本の医療界においては、医師数に占める女性医師割合が18.1%（2008年）から21.9%（2018年）と増加傾向にあるものの、必ずしもGender Equalityが達成されているわけではありません。例えば、卒後12年目の女性医師の中で診療に従事する割合は73%で、男性の90%と比較して低い状態が続いています。女性医師が診療現場を離れる理由の大半が出産と育児と報告されており、多くの女性医師が出産や育児を経験しながら診療を続けることができていないことが分かります。この現状に対応するためには、医師の働き方改革や偏在対策等の医療提供体制の改革、女性のライフイベントを考慮した卒前・卒後医学教育の在り方、医師の仕事の評価方法（例：管理職選任方法）の在り方、産休や育休中の医師の仕事カバーする医師のためのインセンティブの在り方等を包括的に検討し、女性医師が診療に従事し続けることができる環境整備が必要とされます。

このように課題が山積する中で、私は2016年7月に開催された「医学生・若手医師キャリアデザインセミナー」に初めて参加させて頂き、その後も数回

出席させて頂きました。最も印象に残っているのは、良い医師になりたいという志に燃えながらも、将来の結婚や出産、育児と仕事の両立に不安を抱え、先輩医師に助言を求める医学生の姿でした。この医学生と若手医師を対象とした北海道医師会の取り組みは、二つの点で先駆的だと感じています。

このセミナーは、学生や若手医師の頃から、性別を問わず、キャリアやワークライフバランス、男女共同参画について議論し、考え、行動していくことを促しています。これは、将来の日本の医師のGender Equalityをより良い方向に導いていく可能性があります。また、世界医師会は2018年10月に声明を採択し、医師のGender Equalityを実現するための各国医師会の役割として、性別によらず医学に関わる多様なキャリアを追求する機会とインセンティブを探求するように推奨しています。このイベントは、その役割の一端を担う重要なものだと感じています。

また、このセミナーの企画と運営は、北海道医師会と医学生や若手医師の有志が相談し合い、若手のアイデアを取り入れて開催して頂いています。それによって、繊細な問題であっても、若手の率直な意見が聴かれ、議論が盛り上がります。一般的に医師会活動に関わる若手は少なく、イベント企画や運営に参画することはさらに稀です。近年は世界医師会や日本医師会がジュニアドクターズネットワーク（JDN）を設立し、都道府県医師会でも若手医師を巻き込もうという動きが広がっています。その中でも、北海道医師会は長期的な視点で若手に役割を与え、医師会活動に主体的な関わりを促し、JDNや国際医学生連盟等のつながりを基に世代交代の仕組みを作るなど、全国のモデルケースとなっています。

女性医師等支援相談窓口の皆様の御支援、御指導に心より感謝申し上げますと共に、益々の御発展を祈念致します。

## 学生そして若手医師の立場から 北海道医師会の事業に参加して

東京都立広尾病院  
救命救急センター専攻医  
日本医師会ジュニアドクターズネットワーク副代表  
石島 彩華 先生



私と北海道医師会の初めての接点は、医学部生時代に国際医学生連盟 日本 (IFMSA-Japan) の代表として出席した北海道医師会主催の座談会でした。

この座談会は、道内の各医学部およびIFMSA-Japanより学生が参加し、毎回1つの医療課題（女性医師の出産を契機とした離職率や医師の地域偏在問題など）について学生の意見を北海道医師会の理事の皆さまがヒアリングしてくださる形で年に数回開催されていました。この座談会を通して、若手の意見に真摯に耳を傾ける理事の先生方の姿勢にとても感銘を受けました。

初期臨床研修中には、臨床で得た知見を元に医療や社会の課題について取り組みたいという気持ちが募り、日本医師会ジュニアドクターズネットワークに参加致し、キャリアデザインセミナー等の企画運営に携わりました。

また、夫の仕事を理由に東京都に移り救急科専攻医として勤め始めた後は、北海道医師会から得たご

縁で、日本医師会にて若手医師として女性医師として意見を述べさせていただく機会をいただいております。

医師会において比較的マイノリティである若手および女性目線から、現場の生きた情報を伝えられるという点で、自分が医師会にかかわることに非常に意義を感じています。

さまざまな世代、臨床・研究・行政などさまざまな分野で働く医師たちの声を聞くことで、医療現場の実情の詳細な理解、そして真の課題解決が進むのだと考えます。

特に、現場の主戦力であり子育て世代でもある若手医師の意見がより医師を取り巻く環境の整備に反映されることで、「医師」という職が、よりやり甲斐があり、時代に合った形で持続可能なものになるでしょう。

北海道医師会がそのきっかけとなってくださることを切に願っております。